

子どもたちに育てたい学力とそれに伴う施策の推進

令和7年11月
立川市立新生小学校
校長 千葉 貴樹

今までに発出した学校だより「しんせい」でご紹介した内容を下記の通り整理しましたので、学校評価の際にご参考にしてください。

◆子どもたちに育てたい学力「課題解決力」について

現在の学習指導要領では、「基礎的・基本的な知識及び技能」だけではなく、これらを活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体的に学習に取り組む態度等」の育成を目指しています。

また、我々教師が授業をする際には、「何を教えるか」というより、「どのような能力・態度を子どもたちに身に付けさせるか」を意識し、「子どもたちが理解していることやできること（既習事項）をどう使って、新しい課題を解決する」ことができるようしていくことが重要です。

そこで本校では、「基礎的基本的な力」と共に、次の4つの課題解決力（●印）を身に付けさせることを目指して授業を行うようにしています。

- 課題意識をもち問題を発見する力
- 根拠をもって考え方表現する力
- 比較・関連付ける力
- 学んだことをまとめ、次につなげる力

◆「基礎的基本的な力」の向上について

「基礎的基本的な力」についてお話をさせていただきます。

上記でも述べましたが、「理解していることやできること」つまり既習事項は、思考力・判断力・表現力を駆使して課題を解決するために必要な知識・技能であり、「基礎的基本的な力」としてとても重要です。

そこで、タブレット等も活用してデジタルドリル等の学習や朝学習の充実を図るとともに、

- 特に中間層の児童に視点を当てて、参加を希望している中間層の児童を中心に、放課後のパワーアップタイムにおいて、学習意欲を喚起しながら基礎的基本的な力の向上を図ります。
- 一般財団法人「日本教科別能力検定協会」と連携して、希望者を対象に、「日本漢字能力検定」を本校を会場として実施していきます。

◆「課題意識をもち問題を発見する力」について

本校が重視する、4つの課題解決力のうち、「課題意識をもち問題を発見する力」についてお話をします

- 課題意識をもち問題を発見する力
- 根拠をもって考え方表現する力
- 比較・関連付ける力
- 学んだことをまとめ、次につなげる力
- ◎基礎的基本的な力

子どもたちが困難な状況に出会ったときに、その状況を解決していくためには、課題解決力が必要ですが、まず大切な課題解決力は、「なぜだろう」「どうしてこうなるのだろう」「ここを何とか変えたいな」といった疑問や不思議から課題意識をもてるようになる力が必要です。

そのため、学校では・・・

- 授業の初めの段階で、まず意図的に「おや?」と思うような資料や話題等の提示を行う。
- その提示された内容から、子どもたちなりに考える場面を設定する。
- 子どもたちが考えたことを受け、全体や個々の課題・めあてを設定して、それらに対する自分の考え方やその解決方法を自分なりに考える。

いつもこの展開になるとは限りませんが、課題・めあてを設定する前の、様々な状況に「出会う」最初の段階を重視し、自分なりに考える場面を設定していくことで、子どもたちに、「課題意識をもち問題を発見する力」が身に付くようにしています。

◆「根拠をもって考え方表現する力」と「比較・関連付ける力」について

本校が重視する、「課題解決力」のうち、「根拠をもって考え方表現する力」と「比較・関連付ける力」を関連させてお話をします。

子どもたちが困難な状況に出会ったとき、まずは疑問や不思議から、課題意識をもてるようになる力が必要であるお話をしました。

次に、その課題意識から生まれた、全体や個々の課題やめあてに対して、「こうなのかな」と自分なりの考えをもつことが大切です。

子どもたちの様子を見ていると、知っていることであると、それなりに考えて自分の意見が言えても、その根拠や理由を問われると、うまく言えなくなってしまう児童が多くいます。

さらに、まったく知らないと、そこで、思考が止まってしまい、何も言えなくなってしまいます。

ここでまず大切なことは、知らないことをどうやって考えるかです。

そこで、学校では・・・

- 何を基にして考えたらよいかを示す、又は子どもに考えさせる。
- 今までの生活経験を思い出させ、それと比較・関連させて考えさせる。
- 今までに学習したこと（既習事項）を確認して掲示し、それと関連させて考えさせる。
- 絵や画像、表、グラフ等を見させて、それと関連させて考えさせる。
- 2つ以上の事象を比較させて、同じところと違うところを考えさせる。

つまり、知らないことでも、生活経験や既習事項、様々な資料を基にして考える、つまり考え方を学ぶことで、「根拠をもって考え方表現する力」を身に付けることができます。

ここで、もう一つ大切なことは、「比較・関連付ける力」です。

もちろん、基礎的基本的な知識・技能は必要ですが、今の時代、知らないことでも、スマホやタブレット等のICTを利活用して、知識を得ることができます。

しかし、その得た知識や知っていることなど、様々な情報を「比較・関連付ける力」が必要で、知っていることを活用しながら、知らないことを考えるようになる「考え方」が重要です。

この「比較・関連付ける力」は、学習指導要領で重視されている深い学びに必要な力です。

各家庭でも、子どもたちに何かについて考えさせるとときに、比較や関連する事柄を示してあげて、考えさせるようにしていただけますと幸いです。

もう一つ、「表現する力」についてお話をします。

「表現する力」というと、話したり、文章に書いたりする力と考えがちですが、

それだけではありません。

学校では例えば・・・

- 算数や社会などで、図や絵、表、グラフに表して、自分の考えを表現する。
- 国語・社会などで、○○新聞や模造紙に、一つの課題に対して、いくつかの小見出しを工夫しながら、様々な観点でまとめる。
- 紙に書くだけではなく、タブレットやプレゼンテーションソフトを活用して、映像や動画にまとめる。
- 発表する際も、口頭発表やポスターセッション、タブレットでの発表、クイズ形式、ペーパーサートなどで発表する。

発表する目的や内容によって、さらには子ども一人一人の得意分野などを活かして発表することが大切です。

◆「学んだことをまとめ、次につなげる力」について

「課題解決力」の4つ目「学んだことをまとめ、次につなげる力」についてお話しします。

- 課題意識をもち問題を発見する力
- 根拠をもって考え方表現する力
- 比較・関連付ける力
- 学んだことをまとめ、次につなげる力
- ◎基礎的基本的な力

学校では、毎時間、小単元ごと、大単元ごと、それぞれの終わりに、「まとめの時間」を設定します。その「まとめの時間」に、子ども一人一人や、学級全体として、書く、話し合う等して、「学んだこと」、つまり「分かったこと」を、まとめていきます。

しかし、それだけではなく、「考えたこと」もあわせてまとめことが多いです。

ここで大切なことは、一つ一つ分かったことを積み重ねていくというより、「比較関連付ける力」を發揮して、「分かったこと」一つ一つを比較・関連させ、結び付けて、「統合的に考える」ことです。

学校では例えば、次のようなつぶやきを大切にします・・・

さらに、「疑問に思ったこと」や「次にやってみたいこと」をまとめることもあります。

同じように、「分かったこと」一つ一つを比較・関連させ、結び付けて、「発展的に考える」ことも大切です。

学校では例えば次のようなつぶやきを大切にします・・・

- 今日の学習で分かったことがあったけど、この前の学習で分かったことと比べると、このことが疑問だな。次の時間考えてみたいな。
- 今日学習して分かったことをよく考えると、次にこんなことをやってみたいな。

いつもこのようにはなりませんが、「統合的発展的に考えてまとめる」ことが、次時以降の、「課題意識をもち問題を発見する力」の育成につながるようにしていきます。